

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200531		
法人名	(株)パラディ		
事業所名	長寿の里 相知		
所在地	佐賀県唐津市相知町黒岩518-2		
自己評価作成日	平成 31年 2月 15日	評価結果市町村受理日	令和2年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 31年 4月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の要望に迅速に対応する事。今行きたい場所や今したい事を実現する事に注力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員のフットワークが軽く、入居者の希望時に散歩や買い物、外食、友人宅への外出支援を日常的に行われている。職員一人ひとりが入居者が明るく、刺激的に過すというホームの理念を共有し、入居者の希望を叶えることを目標に職員間で協力をしながら支援に取り組まれている。その他、できるだけおむつの使用を抑え、トイレで排泄できるよう、試行錯誤を行いながら職員一丸となって支援に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	ユニット名	ユニット名		ユニット名	ユニット名
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(あじさい)	自己評価(なの花)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、楽しく、健康で」と日々の健康管理と、少しでも刺激のある生活を提供すると共に笑顔のある日常生活を心がけています。	「明るく、楽しく、健康で」と日々の健康管理と、少しでも刺激のある生活を提供すると共に笑顔のある日常生活を心がけています。	理念は詰め所に掲示し、毎日の申し送り時に理念の唱和を行っており、職員一人ひとりが理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やドライブを通して、地域の方々との挨拶を行っています。特に地域の行事があれば、顔を出す事を心がけています。	散歩やドライブを通して、地域の方々との挨拶を行っています。特に地域の行事があれば、顔を出す事を心がけています。	地区の行事等に積極的に参加されており、地元の小学生の社会科見学や保育園との交流を長年行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	未だ実践に至っていません。	未だ実践に至っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、認知症への理解や事故防止への取り組みの相談や助言をいただいています。	運営推進会議を通して、認知症への理解や事故防止への取り組みの相談や助言をいただいています。	行政担当者や地区の代表者、家族に参加依頼をされており、ホームの状況報告や意見交換を行っている。しかし、地区の代表者は日中仕事をしており、出席が困難な時期が多く見受けられる。	地域の人参加しやすい日時の設定など、参加に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故発生時や、苦情等があれば市へ報告し対応の助言を頂いています。	事故発生時や、苦情等があれば市へ報告し対応の助言を頂いています。	必要に応じて、行政の担当者へ報告・相談を行うなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を組織し、毎月の勉強会や会議での事例の有無を検討。また、身体拘束への理解を周知しています。	身体拘束委員を組織し、毎月の勉強会や会議での事例の有無を検討。また、身体拘束への理解を周知しています。	現在、身体拘束はホームでは行っていない。毎月の勉強会時に身体拘束運営適正化検討委員会を行い、身体拘束防止に対する職員の意識を常に高められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議にて、虐待について報告を行っています。言動や行動の共同での監視など。	毎月の会議にて、虐待について報告を行っています。言動や行動の共同での監視など。		

自己	外部	項目	自己評価(あじさい)	自己評価(なの花)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修への参加を行っています。	施設外研修への参加を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容・解約の方法など、事前に報告しトラブルなどありません。	契約内容・解約の方法など、事前に報告しトラブルなどありません。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置を行い、苦情があれば報告と共有を行っています。	苦情箱の設置を行い、苦情があれば報告と共有を行っています。	入居者や家族より意見があった場合は、申し送りで職員全体に周知し、必要な部分は介護計画に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や、随時の意見をくみ取り必要あれば管理者より上司へ報告しています。	個人面談や、随時の意見をくみ取り必要あれば管理者より上司へ報告しています。	年2回は職員の個別面談を行い、職員の意見を管理者が汲み取る機会を設けている。また、日頃から勤務体制など職員の要望に配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与・処遇改善の振り分けや、昇給についても、人事考課を行っています。	賞与・処遇改善の振り分けや、昇給についても、人事考課を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数等を考え、研修を毎月実施しています。また、社外での研修への参加を促しています。	経験年数等を考え、研修を毎月実施しています。また、社外での研修への参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GH連絡会へ参加し、研修参加を行っています。	市内GH連絡会へ参加し、研修参加を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価(あじさい)	自己評価(なの花)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の聞き取りを十分に行い、本人様が不安にならないように対応しています。	初期の聞き取りを十分に行い、本人様が不安にならないように対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の情報と共に、生活を共にされてきた事での不安な点や介護での疲れやストレスについて聞き取りを行っています。	本人様の情報と共に、生活を共にされてきた事での不安な点や介護での疲れやストレスについて聞き取りを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族の情報を参考に必要な支援を考慮しています。	本人様・家族の情報を参考に必要な支援を考慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々出来る事にきを配って対応しています。炊事・洗濯・掃除など。	日々出来る事にきを配って対応しています。炊事・洗濯・掃除など。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との外出・外泊を大切に思っています。出来るだけ、家族様の支援が受ける事ができるように支援しています。	家族様との外出・外泊を大切に思っています。出来るだけ、家族様の支援が受ける事ができるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の社会的資源を活用し、ホームや職員の都合を押し付けないようい支援しています。	以前の社会的資源を活用し、ホームや職員の都合を押し付けないようい支援しています。	入居者より要望のある場合には、友人宅までの外出支援を行うこともある。また、馴染みの人の訪問も徐々に増えるなど、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係に注意し、トラブルに注意しています。孤立も、必要に応じて一人の時間を提供しています。	利用者様同士の人間関係に注意し、トラブルに注意しています。孤立も、必要に応じて一人の時間を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価(あじさい)	自己評価(なの花)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居・入院など、施設外での相談や不安な点への対応など行っています。	退居・入院など、施設外での相談や不安な点への対応など行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	完全な再現は困難であるが、本人様の希望に添えるよう配慮を行っています。また、家族様の協力を必要に応じて依頼しています。	完全な再現は困難であるが、本人様の希望に添えるよう配慮を行っています。また、家族様の協力を必要に応じて依頼しています。	会話の中から聞き出し、できるだけ本人の希望に添えるよう支援されている。思いを伝えることが難しい入居者に対しては、本人の性格等を考慮しながら思いをくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴をできるだけ聞き取り、本人の希望に添えるように努力しています。	個人の生活歴をできるだけ聞き取り、本人の希望に添えるように努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、そこからの読み取りと職員・ケアマネで情報の共有を行っています。	アセスメントを行い、そこからの読み取りと職員・ケアマネで情報の共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、一人一人に対し担当職員を配置しケアマネ・介護・管理者で相談し対応しています。	利用者様、一人一人に対し担当職員を配置しケアマネ・介護・管理者で相談し対応しています。	介護計画は、本人や家族の意向を反映できるように努めている。また、申し送り時や職員会議時に随時、職員に周知し、担当職員の意見も取り入れながら作成することで、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録あり	個別の記録あり		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のみのサービスではなく、施設外の外食やイベントへの参加行っています。	施設内のみのサービスではなく、施設外の外食やイベントへの参加行っています。		

自己	外部	項目	自己評価(あじさい)	自己評価(なの花)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の以前からの資源を活用し、外出も以前の馴染みある場所へ行っています。	利用者様の以前からの資源を活用し、外出も以前の馴染みある場所へ行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、利用者様のかかりつけ医を尊重しています。希望ない場合は、ホームの協力医療機関にて受診・往診を行っています。	基本、利用者様のかかりつけ医を尊重しています。希望ない場合は、ホームの協力医療機関にて受診・往診を行っています。	かかりつけ医を継続することができ受診はホームで支援している。また、医療機関とは適宜、情報交換をするなど連携しており、必要な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時、相談しています。また、協力医療機関・かかりつけ病院への連絡をこまめに行っています。	必要時、相談しています。また、協力医療機関・かかりつけ病院への連絡をこまめに行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、定期的に面会を行い看護師・医師と可能な限り情報交換を行っています。	入院された際、定期的に面会を行い看護師・医師と可能な限り情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に決定するように努めていますが、具体的に入院や体調不良時に再度確認しています。	入居時に決定するように努めていますが、具体的に入院や体調不良時に再度確認しています。	入居時に重度化した場合の対応について確認し、状態が変わった場合は、随時、主治医に確認を取ること適切な対応をしている。また、できるだけ本人・家族の要望に添った支援が行えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し、また研修を行い対応について共有をしています。	マニュアル作成し、また研修を行い対応について共有をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っています。災害時も同様の手順	年2回の火災訓練を行っています。災害時も同様の手順	年2回の火災訓練はもちろん、電化製品のコンセント部分の清掃や棚など高い部分にものを置かないなど、日頃から防災に対して配慮がなされている。しかし、地域住民への協力依頼はこれからである。	地域住民にホームへ足を運んでもらう機会をつくるなど、今後は地域の方との協力体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(あじさい)	自己評価(なの花)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に合わせ、声掛けを変える事もあります。排泄の有無に関して、大きな声で聴かないなど	個人に合わせ、声掛けを変える事もあります。排泄の有無に関して、大きな声で聴かないなど	対象者やその場に応じた声掛けを行うように、日ごろから管理者が指導を行われている。記録物は基本的に詰め所で保管し、個人情報の保護の必要性が高いものは鍵付きの棚に収納するなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや散歩などで言われた事で、実現可能な事を可能な限り実現するよう努力しています。	声掛けや散歩などで言われた事で、実現可能な事を可能な限り実現するよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にそって支援を行い、入浴や食事自室で対応などペースに合わせて対応しています。	利用者の希望にそって支援を行い、入浴や食事自室で対応などペースに合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は、自分で衣類を選んで頂けるよう支援しています。入浴時など。	可能な方は、自分で衣類を選んで頂けるよう支援しています。入浴時など。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合わせて、苦手なものを変更したり、本人の嗜好品の導入など行っています。	個人に合わせて、苦手なものを変更したり、本人の嗜好品の導入など行っています。	入居者の要望を聞きながら、近くのファミレスや回転寿司、馴染みの店に外食に行くこともある。また、入居者の要望を献立に反映するなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態やトロミなど、個人に合わせて対応しています。	食事形態やトロミなど、個人に合わせて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診と、毎食後の口腔ケアを行っています。	週1回の歯科往診と、毎食後の口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価(あじさい)	自己評価(なの花)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にオムツの使用を行い、トイレ誘導や排泄量に合わせてオムツの選定を行っています。	個別にオムツの使用を行い、トイレ誘導や排泄量に合わせてオムツの選定を行っています。	排泄チェック表や排泄サインからパターンを把握し、入居者に応じたトイレ誘導を行っている。また、本人に適したパットを検討するなど、おむつの使用がひとりでも減るよう、職員一丸となって取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を行い、可能な限りトイレへの誘導を行っています。	水分補給を行い、可能な限りトイレへの誘導を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴も拒否がある場合は、誘導する職員や時間を変えて対応しています。	入浴も拒否がある場合は、誘導する職員や時間を変えて対応しています。	一番風呂の希望のある方は、早めにお風呂に入ってもらおうよう声掛けをしている。入浴日を固定せず、希望に応じて、毎日入浴できる環境を整えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を設けず、本人のペースに合わせ対応しています。	就寝時間を設けず、本人のペースに合わせ対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時や、入居時には情報提供書やお薬ノートからの情報を共有するようにしています。	内服薬の変更時や、入居時には情報提供書やお薬ノートからの情報を共有するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のADLに合わせ、屋外や屋内で出来る事を出来るように支援しています。	利用者のADLに合わせ、屋外や屋内で出来る事を出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向や、天気などを考慮し屋外への外出や自宅までのドライブなど行っています。	本人の意向や、天気などを考慮し屋外への外出や自宅までのドライブなど行っています。	日常的に入居者から買い物に行きたい、散歩したいなどの要望が聞かれた場合は、その都度、対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価(あじさい)	自己評価(なの花)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭を持っている方は、買い物に付き添い自分で支払いできるように支援しています。	個人で金銭を持っている方は、買い物に付き添い自分で支払いできるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎回、要望あれば対応しています。	毎回、要望あれば対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の設えや、家具の配置を考え不快感の無いよう対応しています。	ホーム内の設えや、家具の配置を考え不快感の無いよう対応しています。	入居者の方がくつろげるよう、ソファの配置等が工夫されている。また、共有空間の高い場所に物を置かないよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間も大事に、個別に対応しています。無理に他者との交流をさせないよう対応しています。	一人の時間も大事に、個別に対応しています。無理に他者との交流をさせないよう対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の以前の生活の中で使用された家具や食器。嗜好品など自由に居室へ置いて頂いています。	本人の以前の生活の中で使用された家具や食器。嗜好品など自由に居室へ置いて頂いています。	特に持ち込みの制限はされておらず、使い慣れた家具等を入居者の利用しやすいよう配置がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人のADLIに合わせ、家事の手伝いを行っています。	個人個人のADLIに合わせ、家事の手伝いを行っています。		